

令和元.11.吉日

御即位記念 第71回 正倉院展 鑑賞会 報告

21 回生関西支部の恒例行事になりました正倉院展の鑑賞会に 11 月 2 日（土）に有志 5 名の参加で行きました。 ほぼコアメンバーとなった篠原君、田中義一君、廣田君、安永君、そして私川邊のロートル五人衆です。

残念ながら、今回は、皆さん都合がつかず、在阪以外や女性の参加者はありませんでしたが、国立奈良女子大見学というオマケつきで、深まりゆく奈良を堪能しました。

近鉄奈良駅に 10 時半に集合し、金券ショップで 990 円の観覧券を購入し（当日券 1,200 円前売り券 1,000 円？）、いざ奈良国立博物館へ向かいました。

丁度 興福寺中金堂の一般公開もあって、観光客でいっぱいの五重塔前を過ぎると、はや入場口は長蛇の列が出来てます。

30 分弱で入場できましたが、ちょっと遅かったら、12 時すぎまで並ばねばならないところでした。今回の出陳物の目玉は、鳥毛立女屏風、七條刺納樹皮色袈裟（しちじょうしのうじゅひしょくのけさ）、赤漆文か木御厨子（せきしつぶつかんぼくのおんずし）などです。

例年に比べ、韓国の旅行者は見当たりませんが、中国人の旅行者の多さには驚きます。でも、鑑賞マナーは、随分洗練されてきたことがわかります。

毎回ボランティアの博物館員による「みどころ説明」が楽しみだったのですが、今回は開催時間に合わせる事が出来ず、出口に 12 時半集合という約束で、各自興味のある展示物に向かいました。いずこも陳列ガラスの前には、人の頭しか覗けず、ただでさえ視力の衰えた小生には、貴重な古文書も判読どころではありません。それでも螺鈿細工の見事さには、直ぐには次へ進む気になれません。

約束の時間には、ちょっと早いかと 12 時には出口に行くと、全員が揃ったところで、今回のメインイベントでもある、いざ奈良女子大学へ…

観光都市奈良を目指して、奈良女子大学周辺の街並み（鍋屋町）を「奈良北町まちおこし」というコンセプトで行政や女子大学生、地元が一体となって進めています。中心となっている奈良女子大学大学院教授瀬渡章子さんは、旦那さんが、私 川邊の会社の後輩でもあります。彼も、協議会の主要メンバーです。

今回は、その主要施設を見ると、女子大の食堂で昼食を食べようと企画しました。

奈良女子大学は、お茶の水女子大学と並んで、国立の女子大学としては、未だに男子禁制



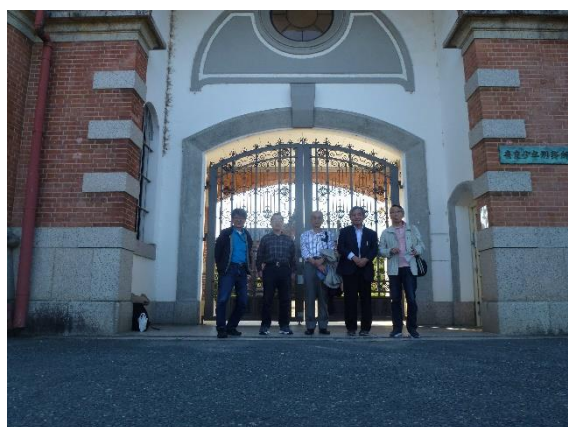
の大学であり、その前身は 1908 年（明治 41 年）に開設された奈良女子高等師範学校です。

学生生協が運営する学生食堂は、ビュッフェ式のセルフサービスで一般にも開放されているのですが、土日に開いているかは未確認でした。

しかし、幸いなことに？丁度学園祭の真っ最中で、さも孫のために来場したかの様な顔をして、憧れの女子大へ堂々と入場した我々…

目当ての学食は、学生の模擬店に占領され、鮎かけ焼きそばセット 350 円は、量が少なすぎて空腹を満たすには不満でしたが、給仕の女の子が可愛かったのも愚痴りません。

阪大教授だった安永君も、しばし学術者の顔に戻り、記念館や校内を散策する面々は、正倉院展よりも満足そうでした。



北へ向けて出発し、佐保川沿いに正倉院ゆかりの聖武天皇陵、光明皇后陵を拝謁し、京街道の関門城郭だった多門城跡（現若草中学）を過ぎて、明治の洒落たレンガ造り「旧奈良監獄（旧奈良少年刑務所）」で記念写真を撮影しました。解体される予定でしたが、ホテルとして再生されることになっています。さすがに奈良女子大とは違い、誰も入りたかったとは言いません。

奈良市内唯一の植村牧場で濃密なアイスクリーム 450 円（400 円だったのに消費税アップに便乗）を食べて、般若寺（コスモスは旬を過ぎてました。）から北山十八間戸、転害門（てがいもん）を経て、正倉院へ。

5 時までの開門時間に何とか間に合い、記念写真をパチリ。最後の舞台である奈良県庁の屋上展望室へ行くと、快晴の夕間暮れ間近の奈良盆地がくっきりと望めます。直下には、東大寺、興福寺を、東正面には、若草山とその山麓に、二月堂や三月堂を、西から南にかけては、生駒山から二上山、葛城山、金剛山の大阪府との境界の稜線が、そしてその手前に畝傍、耳成、天乃香久山の大和三山が見渡せました。





約2万歩弱を歩いたあとの祝杯は、JR 奈良駅前のその名も「駅前酒場」で懇親会。いつ行っても、必ず座れることと、老人クラブとあっていいほど、年配者が多いだけの店ですが、名物料理もないかわりに安価で居心地がいい店です。

来年、古希記念の同窓会の参加のことなど、歓談ののち、別れを惜しみながら、JR 組と近鉄組にわかれて、

帰宅の途に就きました。

京都に比して、奈良の誇れるところは、参観無料の施設が多く、まだ観光地ずれしていないことでしょうか。多分に身びいきですが。

皆様お疲れ様でした。



記 川邊

追記 昨年参加いただいた福嶋君、7月にお会いした高山君、残念ながら、日程調整のつかなかった青木さん、東君、本吉君、永田君、玉利さん、次回は早めに企画します。

また、高鍋君には、会社のメルアドに送信していたみたいで、この場をお借りし、お詫び申し上げます。